２０１４年１１月２８日

# 教育委員会委員の任命に関する反対討論

大津市議会議員　藤井哲也

議案第２２０号「教育委員会委員の任命」に対し反対討論をする。

前教育長が本年３月に辞任してから早８ヶ月が経過した。中核市であり一定の教育行政権限を有す本市において、教育長が不在という異常で違法な事態が継続してきたわけである。

この間 松田教育部長が職務代理者としてその重責を担い、非常勤である他の教育委員会委員が交代で職場に詰めるなど相当の負荷を被りながらも、教育委員会執行部が一体感を持ち、教育行政の円滑運営に努めつつ、新しい課題にも日々 無難に対応をしてきた。

そうした状況下、ようやく教育長候補である教育委員会委員の人事案が本議会に提案されたところである。一刻も早く異常で違法な状態を脱すべく、そして教 育現場に平穏を取り戻し、子どもたちがストレスなく毎日を過ごすことができるように、教育長を選任すべきことは今更申すまでもない。

しかしながら今回、私は深く思い悩んだ末、以下３点の理由により 本議案に反対する。

反対理由１：教育長としての識見等の不足

市長が今回提示してきた窮余一策とも言える候補者は、そもそも教育長として必要な教育分野の知見や専門性、または現場知識、経験、人脈を有していない。 卓越した事務執行能力を有していると市長は述べているが、教育委員会事務局に配属されて半年に過ぎず、組織トップとして日常の業務並びに今後起こりうる重 大事態に対応するには日が浅いと言わざるを得ない。卓越した行政手腕を生かすも殺すも、その分野の知識・経験ありきの話である。

また、来年４月から施行される新しい教育委員会制度において、教育長は現在の教育

委員会委員長の職務も兼ねることになり、ますます教育行政における役割 は増していく。今後、自己研さんにより知見や資質を向上し、他の教育委員会委員や事務局がサポートするにしても、重要事項に関する判断を行うには荷が重い のではないか。

反対理由２：教育長としての組織マネジメント力の不足

候補者は越市長の秘書課長として２年間職務にあたり、また本年４月からは教育委員会事務局次長として役割を担ってきた。とは言え、これらの経験をもって教育長として必要な組織マネジメント力を有しているかといえば疑問である。

大津市教育委員会は８０名の事務局職員と２４０名を超える現場教職員等によって構成されているが、これら３２０名を超える組織のトップとしてリーダーシップを発揮できるかはこれまでの職務内容や面談を通じて感じた印象、職務遂行能力の観点から困難であると私は考える。

教育長は単なる組織のお飾りではなく、組織のリーダーであるべきなのは申すまでもない。

反対理由３：現体制との比較

仮に今回の候補者が教育長に就任したことを想定し、松田部長を職務代理者とする現在の緊急時体制と比べ、どちらが子どもたちのために良いか 私なりにイメージし、比較検討をした。今回の候補者は議会を含む各部門との調整力や、組織マネジメントでの経験・能力において未知数の部分が多く、一定の リスクを抱えていると言わざるを得ない。また候補者は他の教育委員から信頼を得ていると市長は述べたが、同等かそれ以上に松田教育部長の方が厚い信頼を得 ているように感じるのは私だけではないはずだ。

そのように考えると、ほぼ教育行政の素人である人材が新たに教育長に就き、松田部長が国体準備の部署に配置転換する人事構想を予め伺っているが、そうで あるならば現場は混乱し、教育改革は遅滞し、ひいては 子どもたちにシワ寄せが生じるリスクを敢えて選択するのは難しい。リスクを冒してまで得られるものも見えてこない以上、現在の体制の方がまだマシであろ う。

以上述べた３点が反対する理由である。

なお、候補者本人に対しても今回の件は心中を察するところである。述べてきた反対

理由は、決して一般行政職としての候補者の経験や知見を否定するものではなく、あくまで教育行政分野における評価であることをご理解いただきたい。

最後に市長に一言申し上げて、討論の結びとしたい。

私はこの８か月間、どのような方を新しい教育長として市民、議会に提案してくるのかと大きな期待を抱きながら今日まで待ってきた。きっと前教育長のよう に素晴らしい方を提案してくるのだろうと。そうした中で今回提案されたのがこの案である。誠に遺憾であるとしか言えない。

社会にはもっと有為な人材がキラ星のごとくおられる。そうした人物を発掘し、迎えることができなかったのは、大津市の未来にとって大いなる損失である。

私自身、教育長の不在を解消するため、苦渋の決断により賛成することも考えたが、最終的には現体制のほうがまだマシであるとの結論に至った。

このツケはきっと 子どもの教育現場に影響し、市長自身の評価につながるはずである。私は今回の人事案に反対をする。

以上